Form No. 3355-844

TORO®

ブロア 600

Model No. 44536—Serial No. 240000001 and Up

オペレーターズマニュアル

目次

もくじ 2
はじめに 2
安全について 3
　運転の前に 3
　運転中に 3
　保守 3
　安全ラベルと指示ラベル 4
仕様 6
　主な仕様 6
組み立て 7
　バラストについて 7
　キャスタ•ホイールを取り付ける 7
　下リンク•アームを接続する 7
　上リンクを接続する 8
　PTO シャフトの長さを調整する 8
　PTO シャフトを接続する 9
　スウェイ•リンクを調整する 9
　3点ヒッチのリフトストップを調整する 9
　トラクタからブロアを切り離すには 10
　ブロアにグリスを注入する 10
運転操作 11
　操作上のヒント 11
　エア吹出口の向きを調整する 11
保守 12
　ブロアにグリスを注入する 12
　ベルトの調整 13
故障探究 14
格納保管 15
Toro製品の保証について 16

はじめに

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解してください。オペレータや周囲の人の人身事故や製品の損傷を防ぐ上で大切な情報が記載されています 製品の設計製造、特に安全性には常に最大の注意を払っておりますが、この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマー・サービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。これらの番号は、ブロアのハウジング取り付けた銘板に刻印してあります。

いまのうちに番号をメモしておきましょう。

Model No.	_____
Serial No.	_____

この説明書では、死亡事故を含む人身事故防止のために様々な方法でお客様の注意をうながしております。危険の度合いに応じて、*危険*、*警告*、*注意*、の3種類の用語を使い分けて説明を行っています。しかしながら、危険の度合いに関係なく、常に細心の注意をもって製品をお取り扱い下さいますようお願い申し上げます。

危険: 死亡事故を含む*重大*な人身事故を防止するための最重要安全注意事項です。

警告:死亡事故を含む人*身事故*を防止するための重要安全注意事項です。

注意:けがなどを防止するための安全注意事項です。

この他に2つの言葉で注意を促しています。 **重要** は製品の構造などについての注意点を、注:は はその他の注意点を表しています。

©2003 禁無断転載 The Toro Company

8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196

禁無断転載
Printed in U.S.A.

安全

安全な御使用のためには、機械の運転、移動や搬送、保守整備、保管などに係わる人々の日常の意識や心がけ、また適切な訓練などが極めて重要です。不適切な使い方をしたり手入れを怠ったりすると、死亡や負傷などの人身事故につながります。事故を防止するために、以下に示す安全のための注意事項を必ずお守りください。

運転の前に

- 本機をご使用になる前に必ずこのマニュアルをお読みになり、内容をよく理解してください。操作方法をしっかり身につけ、緊急時にすぐに停止できるようになってください。マニュアルが足りない場合は、製品のモデル番号とシリアル番号を以下までお知らせくだされば、無料で差し上げます：
- 子供に運転させないでください。大人であっても適切な訓練を受けていない人には運転させないでください。このマニュアルを読み、内容をきちんと理解した人のみが取り扱ってください。
- アルコールや薬物を摂取した状態で運転や操作を行うことは避けてください。
- 作業場所から人を十分に遠ざけてください。
- ガードなどの安全装置は必ず所定の場所に取り付けて使用してください。安全カバーや安全装置が破損したり、ステッカーの字がよめなくなったりした場合には、機械を使用する前に修理や交換を行ってください。また、常に機械全体の安全を心掛け、ボルト、ナット、ネジ類が十分に締まっているかを確認してください。
- サンダルやテニスシューズ、スニーカーやショーツでの作業は避けてください。また、だぶついた衣類は機械にからみつく危険がありますから着用しないでください。作業には、必ず長ズボンと頑丈な靴を着用してください。安全メガネ、安全靴、およびヘルメットの着用をおすすめします。地域によってはこれらの着用が義務付けられています。

運転中に

- この製品は運転席に着席した状態でオペレータの耳の位置での音量が85 dB(A)を超える可能性があります。長時間にわたって使用される場合には、聴覚保護のために、聴覚保護具を着用するようにしてください。
- 運転には十分な注意が必要です 転倒や暴走事故を防止するために以下の点にご注意ください：
  - 作業は日中または十分な照明のもとで行う。
  - ゆっくりとした走行速度で運転し、隠れた穴などの見えない障害に警戒を怠らない。
  - サンドトラップや、溝・小川など危険な場所の近くを通らない。
  - 小さな旋回をするときや法面で旋回するときは、走行速度を十分に落とす。
  - 急停止や急発進をさける。
  - バックするときには、後方の安全に注意し、マシンの後部に人がいないことを十分に確認する。
  - 道路付近で作業するときや道路を横断するときは周囲の交通に注意する。常に道を譲る心がけを持つ。
- 清掃作業中は、排出口に人を近づけないでください。周囲の人間が排出口に近づかないように注意し、また排出口を人に向けないように注意してください。
- 斜面でエンストしたり、坂を登りきれなくなったりした時は、絶対にUターンしないでください。必ずバックで、ゆっくりと、まっすぐに下がって下さい。
- **大丈夫だろう、は非常に危険！** 人や動物が突然目の前に現れたら**すぐに作業を停止しましょう。**注意が分散してしまい、地形の変化や障害物に気づかなかったり、ガードの取り付け位置が悪かったりすると、ものを跳ね飛ばし、負傷事故を起こす危険が高くなります。周囲に人がいなくなるまで作業を再開しないでください。

  A. 機械から離れる前に、必ずブロアを地面に降下させ、キーを抜き取ってください。

保守

- 整備・調整・格納作業の前には、エンジンが不意に作動することのないよう、必ずキーを抜き取っておいてください。
- このマニュアルに記載されている以外の保守整備作業は行わないでください。大がかりな修理が必要になった時や補助が必要な時は、Toro 正規代理店にご相談ください。
- ボルト、ナット、ネジ類は十分に締めつけ、常に機械全体の安全を心掛けてください。ファン・シャフトのベアリングの取り付けボルトやナットが所定のトルクで締め付けられているか、頻繁に点検してください。
- Toro製品をToro製品として維持し、いつも最高の性能を発揮できるよう、必ず Ｔｏｒｏ の純正部品をご使用ください。**他社の部品やアクセサリは絶対にご使用にならないでください。**必ずToroの商標を確かめてご購入ください。他社の部品やアクセサリを使用すると製品保証が適用されなくなる可能性があります。

安全ラベルと指示ラベル

危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。



98-3110

1. 危険：オペレーターズマニュアルを読むこと。
2. 危険：保護メガネ等着用のこと。
3. 異物が飛び出す危険：人を近づけないこと。
4. 必ず保護メガネ等着用のこと。
5. 手足切断の危険：可動部すべての動きが完全に停止するまで触れないこと。



92–7936

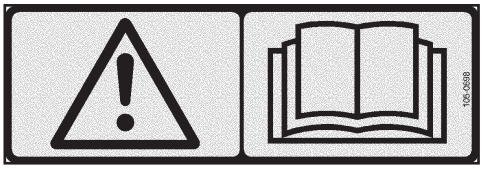


92–7937



105–0669

1. ベルトの張りのインジケータ



105-0698
CE 諸国で 105–0707 に代えて使用する。

1. 警告：オペレーターズマニュアルを読むこと

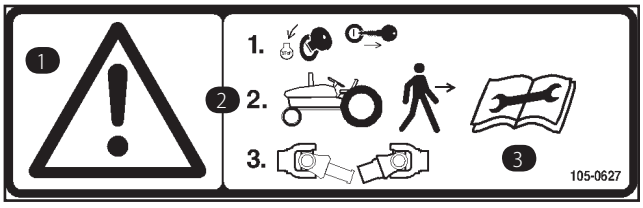


105–0707



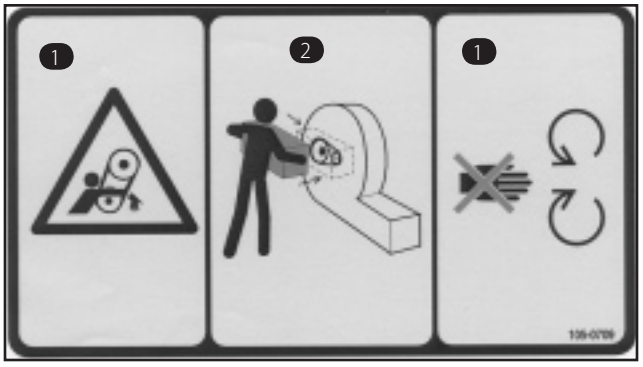
105–0708

1. 異物が飛び出す危険：周囲の人間をシュート排出口に近づけないこと。



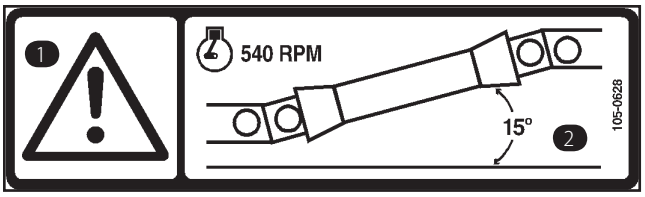
105–0627

1. 危険
2. 運転席を離れる時はエンジンを停止し、トラクタの始動スイッチからキーを抜き取ること。PTO を解除すること。
3. 整備作業前にオペレーターズマニュアルを読むこと。



105–0709

1. 可動部に近づかないこと。
2. 運転する時は必ずシュラウドを中央にセットすること。



105–0628

1. 危険
2. 運転する時はPTO シャフトの角度を15° 以上にしないこと。

仕様

主な仕様

ファン出力	7000 CFM ± 200 CFM165 MPH ± 20 MPH
ファン速度	1173 RPM ± 20 RPM （540 PTO 入力時）
吹出口面積	100 平方インチ (645.16 cm^2)
方向制御	デフレクタ・シュートを標準装備、180° 調整可能。3点ヒッチのすぐ後ろのコントロールでゲートの回転を調整する。
キャスタ・ホイール	ゴム製空気タイヤ (13 x 5.00-6) が2個。
高さ調整	0～38 mm。13 mm 刻みで調整可能。
ターフ保護	長さ 406 mm、直径 102 mm のターフ・ローラをファン・ハウジングの後ろに配置。長さ 203 mm、直径 102 mm のターフ・ローラをデフレクタの下に配置。ベベル処理したスキッド・プレートをデフレクタ・シュートの下に配置。
地上高	トラクタの3点ヒッチとキャスタ・ホイールで決まる。
ファン	0.250 HRPO プレート8枚翼のラジアル設計外径 27 ± 0.5 インチ (686 ± 13 mm) 幅 8-1/2 ± 1-1/4 インチ (216 ± 32 mm) 重量 45 ± 1 kg
ファン・ハウジング	上ハウジングと下ハウジングの二部構造上ハウジング： 12 ゲージ HRPO プレート (前後2枚) による構造。継ぎしろは 12 ゲージ HRPO 圧延フランジ・ブロア・バンドによるフランジ構造で、カットオフ部から半径が大きくなる。下ハウジング： 10 ゲージ HRPO プレート (前後2枚) による構造。継ぎしろは 12 ゲージ HRPO 圧延フランジ・ブロア・バンドによるフランジ構造で、排気管に向けて半径が大きくなる。ハウジングの内側のクリアランス 9-1/4 ± 1-1/4 インチ (235 ± 32 mm)
駆動方式	ベルトの駆動 4–5VX動力源： 30 PTO 馬力 +1/−3 馬力トラクタ (3点ヒッチおよび 540 PTO 装備) 駆動比： .460:1ラブジョイ・タイプのベルト・タイトナ
取り付け：	トラクタの3点ヒッチを使用、カテゴリ1または2。トラクタは 30 PTO 馬力レンジ、3点ヒッチおよび 540 PTO 装備。
重量	215 kg

注： 仕様および設計は予告なく変更される場合があります。

組み立て

注：組み立てに必要な部品がそろっているか以下の表で確認してください。全部そろっていないと正しい組み立てができません。

内容	数量	用途
キャスタ・ホイール アクスル ワッシャ コッターピン	2 2 8 4	キャスタ・ホイールをキャスタ･フォークに取り付けます。
駆動軸	1	ドライブ･シャフトをブロアとトラクタに取り付けます。
オペレーターズマニュアル	1	ご使用前にお読みください。
パーツカタログ	1	
登録カード	1	日本のお客様は返送ご不要です

注：前後左右は運転位置からみた方向です。

バラストについて

⚠ 注意 ⚠

バラストをタイヤに搭載しないと、トラクタが安定性を失い、人身事故につながる恐れがある。

トラクタ前部に必ず所要バラストを搭載のこと。バラストの重量などの詳細はトラクタのマニュアルを参照のこと。

キャスタ・ホイールを取り付ける

1. 各キャスタ・ホイール・アセンブリを2本のキャスタ･フォークの間に挟むようにして取り付ける（ワッシャ4枚、アクスル、コッターピン2本；図1）。

   注：ホイールの各側とキャスタ･フォークの間にワッシャを2枚ずつ挟んでください。

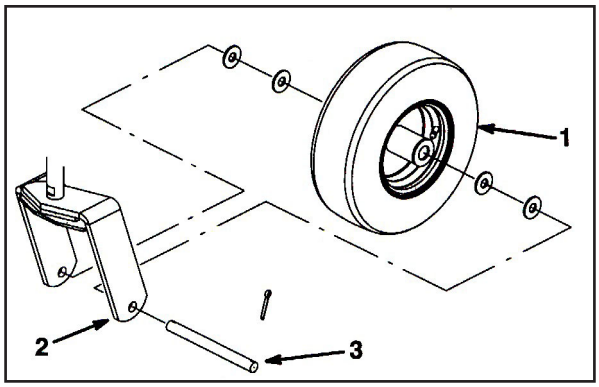


図1

1. ホイール･アセンブリ
2. キャスタ･フォーク
3. アクスル

下リンク･アームを接続する

1. 凹凸のない水平な場所にブロアを置く。
2. ブロアの直前までトラクタを後退で寄せ、下リンク･アームをヒッチピンに整列させる。
3. PTOが解除されていることを確認する。
4. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。エンジンと可動部すべての動きが停止するのを確認して運転席から降りる。
5. ヒッチピンに左右の下リンク･アームを挿入する（図2）。

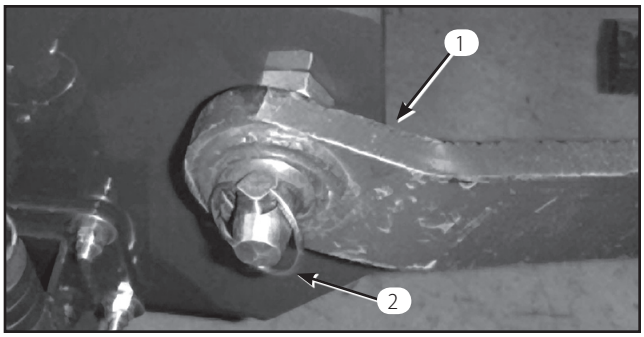


図2

1. 下リンク
2. リンチ・ピン

6. リンチピンで、下リンク•アームをヒッチピンに固定する（図2）。

上リンクを接続する

1. 上リンクをブラケットの穴に接続し、クレビスピンとリンチピンで固定する（図3）。

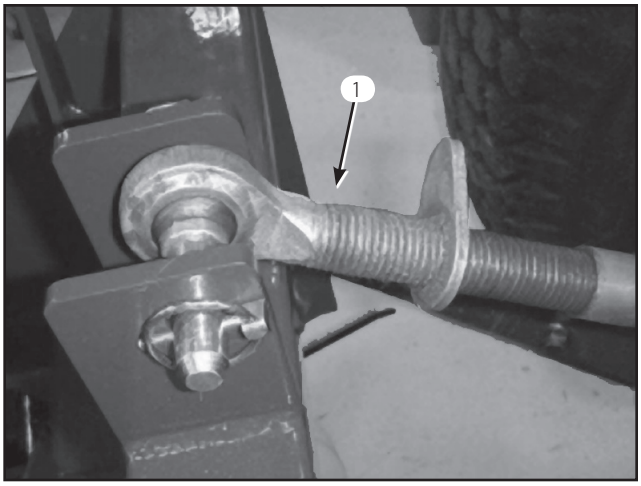


図3

1. 上リンク
2. クレビス•ピン
3. リンチ・ピン

2. 調整リンクを回してリンクを締める。締めすぎるとブロアの後部が浮き上がってしまうので注意する。

3. ロックナットを締めて上リンクを固定する。

PTO シャフトの長さの調整

重要 PTO や3点ヒッチの位置はトラクタによって違います。どんなトラクタにも合わせられるよう、PTO シャフトは長めになっています。長すぎる場合には切断する必要があります。長いまま無理に使用すると損傷につながる場合があります。

1. ブロアを水平に置き、その状態のまま、入力軸の高さがトラクタの PTO シャフトとほぼ同じ高さになるようにブロアの高さを調整する。これが2軸の最短距離となる。

2. トラクタの PTO シャフトのロック溝からブロアの入力軸のロック溝までの距離を測定する。測定値を記録する。

3. PTO シャフトが完全に縮んだ状態で、2つのロックピンカラーの間の距離を測定する。測定値を記録する。

4. PTO シャフトが一番短くなった状態でも完全に縮んだ状態まで少なくとも 37 mm の余裕が必要である（図4）。上記2. で測定した長さが、上記3. で求めた長さより 37 mm 以上大きくない場合には、PTO シャフトが長すぎるので、以下の5. を行う。37 mm 以上ある場合には、以下の10. に進む。

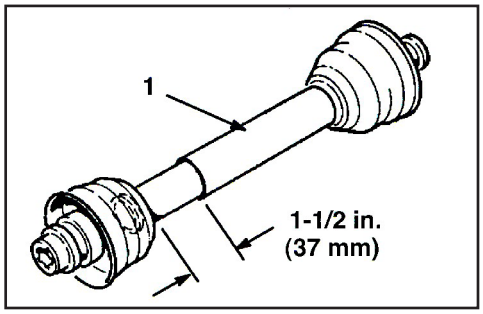


図4

1. PTO シャフト

5. 以下の計算で必要な長さを求める：
   A. 上記2. で測定した長さから、3. で測定した長さを差し引く。
   B. 37 mm からA. で求めた値を差し引く。得られた長さだけ PTO シャフトを短くする。

6. 金ノコを使って、ガードとパイプ（スチール部）を必要な長さに切る。切り口のバリを落としてなめらかにする。

7. 切り口のバリを落としてなめらかにする。

8. パイプ部を十分きれいにする。

9. スチール部に充分グリスを塗布する。
10. PTO シャフトを組み立て、ブロアとトラクタに取り付ける。
11. シャフトの長さを確認する。37 mm 未満であれば、再調整する。
12. ブロアを一番高い位置まで上昇させる。この状態で、PTO のパイプの重なりが少なくとも 75 mm あることを確認する。必要に応じて3点ヒッチのリフトストップを調整する。9ページを参照のこと。

PTO シャフトを接続する

1. PTO シャフトをブロアの入力軸に接続する。
2. PTO シャフトをトラクタのPTO シャフトに接続する。
3. PTO シャフトを一番前までスライドさせる。
4. ピンを押して PTO シャフトを固定する。次に PTO シャフトを前後にスライドさせてロック状態を確認する。

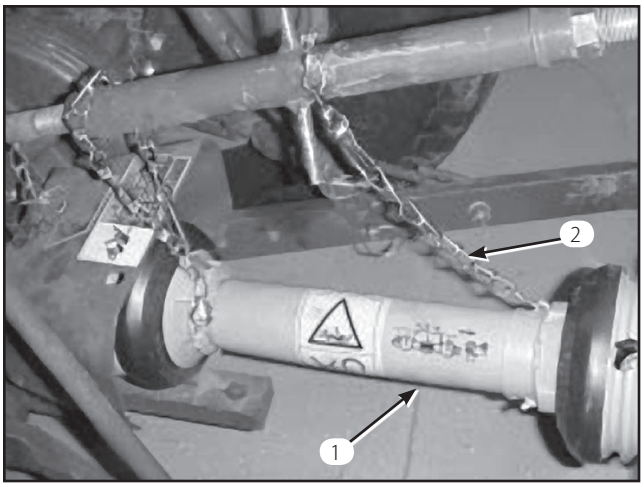


図5

1. PTO シャフト
2. 回り止めチェーン

5. カバー回り止めチェーンをパワーシャフト部からリンク・アームの溶接クリップまたは PTO カバーに接続する（図5）。ブロアを上昇・降下させてもチェーンに余裕があることを確認する。

⚠ 注意 ⚠

カバーにチェーンを取り付けておかないと、運転中にカバーが回り、人身事故につながる恐れがある。

必ず全部の PTO カバーを所定の位置に正しく取り付け、回り止めチェーンをリンク・アームまたは PTO カバーに接続しておくこと。

スウェイ・リンクを調整する

ブロアの左右のふれが各側で 25 mm 以内となるように、3点ヒッチの下ドラフト・アームのスウェイ・リンクを調整します。

1. 下リンクを機械内側に向けて調整してブロアの取り付け板に接触させる（図6）。これはピンへの負荷を小さくするためである。トラクタに付いているのがスウェイ・リンクではなくスウェイ・チェーンの場合は、下リンク・アームとリンチピンの間にワッシャを挟んでリフトピンへのオーバーハング負荷を小さくしてやる。

   注：取り付け、調整の詳細については、トラクタのマニュアルを参照してください。

2. 調整リンク・ボディが付いている場合は、これでリンク・アームを上昇・降下させ、ブロアを左右水平にする。



図6

1. スウェイ・リンク
2. リンク・ボディ

3点ヒッチのリフトストップの調整

3点ヒッチのリフトストップ（図7）を調整して、ブロアを上昇位置にした時に約 10 cm の地上高が得られ、しかも PTO の角度がなるべく小さくなるようにします。移動やトレーラへの積み込み積み下ろしなどの場合には、

PTO チューブが外れない限り、上昇レンジ一杯まで使ってかまいませんが、 一番上まで上昇させたまま PTO を作動させると PTO や他の部品を破損しますから注意してください。

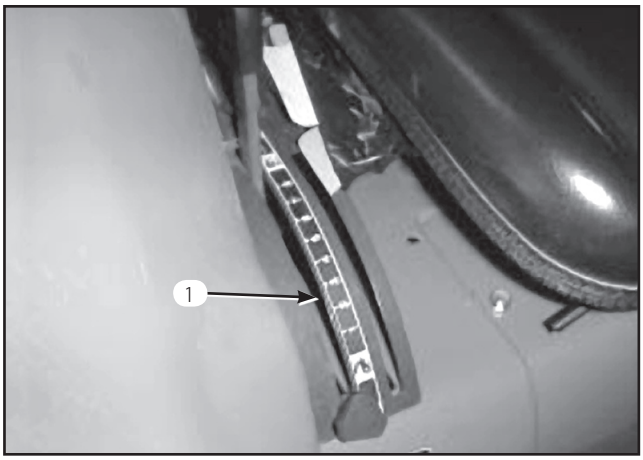


図7

1. 3点ヒッチのリフトストップ

注： 調整の詳細については、トラクタのマニュアルを参照のこと。

トラクタからブロアを切り離すには

1. 水平な場所に駐車する（斜面は禁止）。
2. PTO を解除し、駐車ブレーキを掛ける。
3. エンジンを停止し、キーを抜き取る。
4. エンジンと可動部すべての動きが完全に停止してから運転席を離れてください。
4. トラクタの PTO からカバー回り止めチェーンを外し、 チェーン端をブロア側の PTO シャフトに取り付ける（離脱防止）。
5. ブロアをゆっくりと降下させて、ローラとキャスタ・ホイールを着地させる。
6. センタリンクをブラケットに固定しているリンチピンと上リンクピンを外す。
7. パワーシャフトをトラクタの PTO シャフトから外す。
8. パワーシャフトを後ろにスライドさせてトラクタから外す。
9. 下リンク・アームのリンチピンを外し、アームをスライドさせてヒッチピンから外す。

ブロアをグリスアップする

ブロアの運転を行う前に、PTO シャフト のグリスアップを行ってください。このマニュアルの「保守」の「グリスアップ作業」（12 ページ）を参照してください。潤滑を適正に行わないと重要部品の早期磨耗などの問題が発生します。

運転操作

注：前後左右は運転位置からみた方向です。

運転中の注意

⚠ 警告 ⚠

排出口から噴出す風は非常に強く、まともに吹かれるとケガをする危険がある。

- 清掃作業中は、排出口に人を近づけない。
- 作動中は、排出口の周囲に人を近づけないこと。

1. トラクタを始動させ、低い回転数で運転する。
2. エンジンをアイドリングさせながら、PTO を接続する。
3. PTO 速度を1800 rpm に上げる。
4. ゴミを吹き飛ばす練習をしましょう。風の吹いている方向に飛ばしてやると、ゴミが吹き戻されずにうまくいきます。

エア吹出口の調整

調整ハンドル（図8）でエア吹出口の向きを横から前に変えることができます。

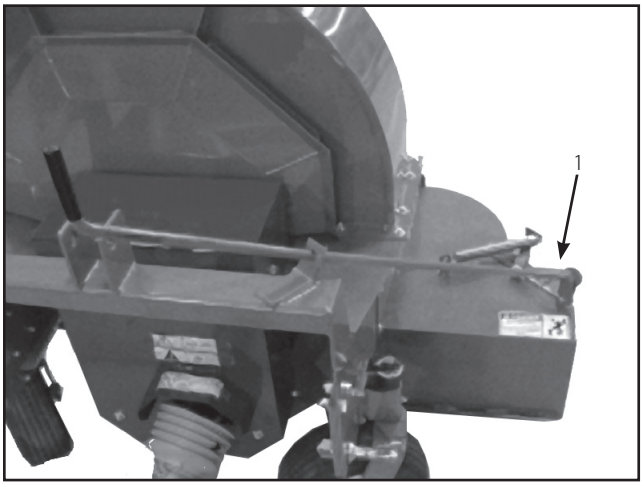


図8

1. エア吹出口
2. 調整ハンドル

保守

注：前後左右は運転位置からみた方向です。

ブロアをグリスアップする

ファン・シャフトのベアリング

8運転時間ごとにファン・シャフトのベアリング（2か所、図9）をグリスアップします。No. 2 汎用リチウム系グリスを使用してください。

注：後ろのグリスニップルから注入する時はベルト・カバーを外して行います。

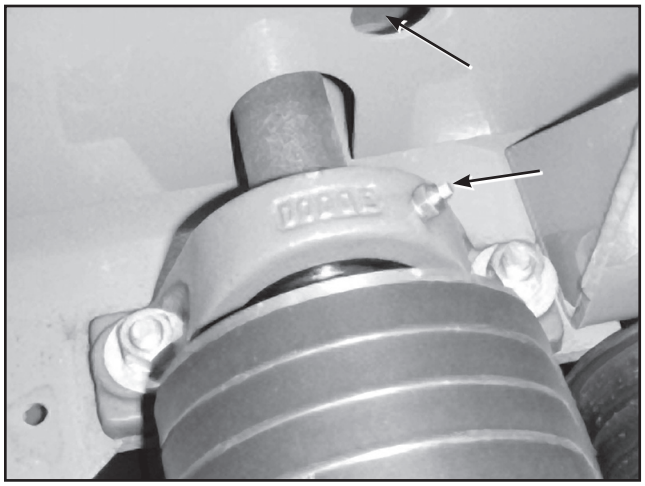


図9

キャスタ・ホイール

通常の条件で使っている場合は、50 運転時間ごとにキャスタ・ホイールのピボット・チューブ（2か所、図10）をグリスアップします。No. 2 汎用リチウム系グリスを使用してください。

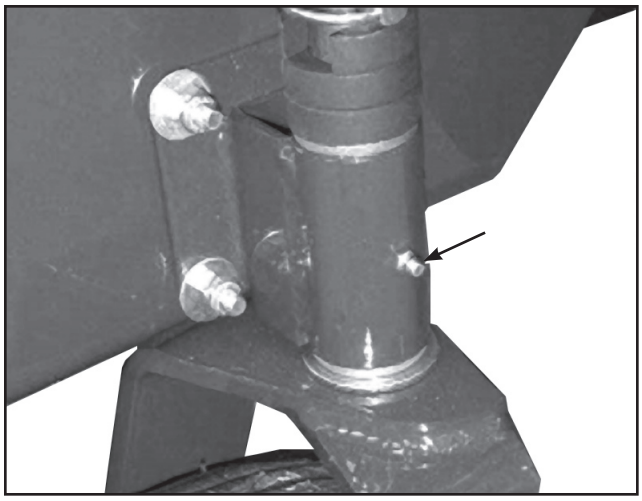


図10

ドライブ・シャフト

通常の条件で使っている場合は、100 運転時間ごとにドライブ・シャフト（2か所、図11）をグリスアップします。No. 2 汎用リチウム系グリスを使用してください。No. 2 汎用リチウム系グリスを使用してください。

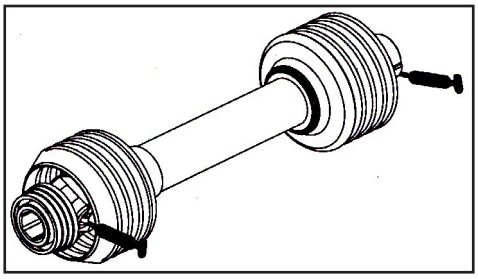


図11

ベルトの調整

確実な動作を保証し、無用の磨耗を防止するため、ベルトの張りは適切に管理してください。ベルトをこまめに点検しましょう。

注：新しいベルトは20 運転時間で点検・調整します。

1. ベルト・ガードをブロア・ハウジングに固定しているキャップスクリュ、ワッシャ、ナットを外して、ガードを取り外す（図12）。

   注：ベルトを調整する時は、ドライブ・シャフトを外す必要はありません。

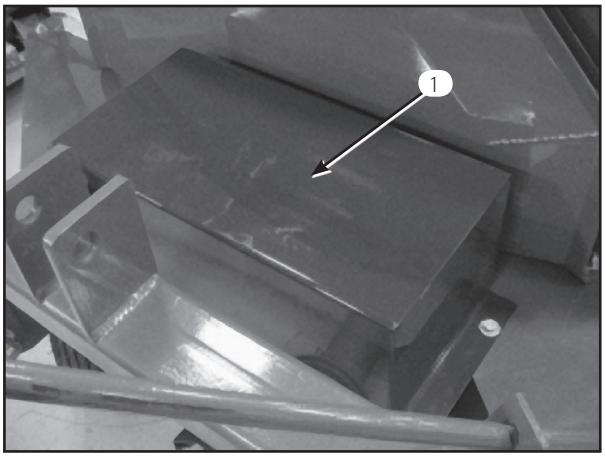


図12

1. ベルト・ガード

2. テンショナ・ガイドをブロア・フレームに固定しているキャップスクリュとナットを外す（図13）。キャップスクリュを外すとベルトがゆるむ。

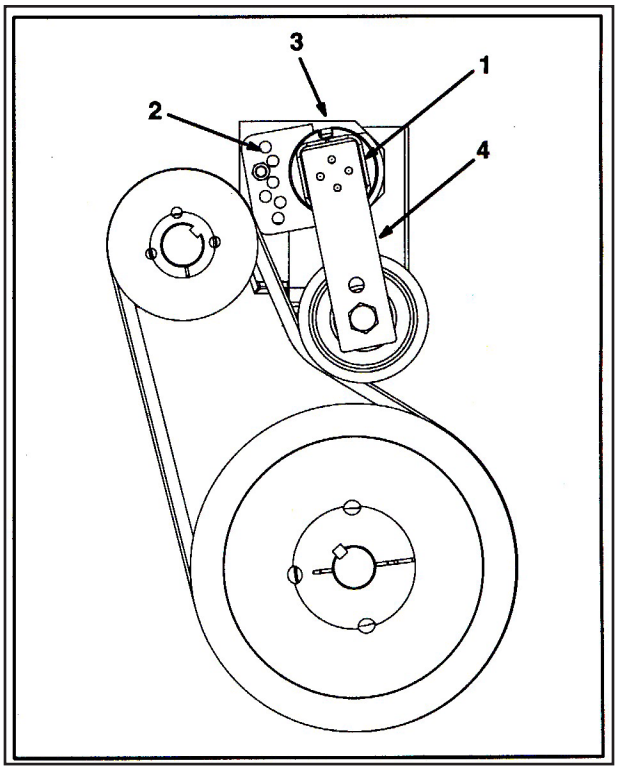


図13

1. ベルト・テンショナ・チューブ
2. テンショナ・ガイド
3. キャップスクリュの位置
4. アイドラ・アーム

3. フレームの裏側でベルト・テンショナをフレームに固定しているキャップスクリュをゆるめる。

4. 大型レンチでテンショナを右に回し、 ステッカーがテンショナ・チューブの 15° にくるように調整する。

5. その状態で合っているガイドの穴にキャップスクリュを挿入し、ナットで固定する。穴が正確に合わない場合は、ガイドを回して一段階高い穴に変え、穴の位置を合わせ直す。

6. フレーム裏側のキャップスクリュを締めてテンショナを固定する。

7. ベルト・ガードをブロア・ハウジングに取り付ける（キャップスクリュ、ワッシャ、ナット）。

故障探究

症状	考えられる原因	対策
異常に振動する。	1. ファン・シャフトのベアリングの損傷。	1. ベアリングを交換する。
	2. ファンの翼に汚れが付着している。	2. ハウジングの内側を清掃する。
	3. PTO シャフトの回転数が高すぎる。	3. PTO 速度を540 rpmに落とす。
エアの出が悪い。	1. エアのスロットが詰まっている。	1. スロットを清掃する。
	2. トラクタ側の回転数が低すぎる。	2. PTO 速度を 540 rpm に上げる。
	3. トラクタ側のエンジンの回転数が低すぎる。	3. トラクタの速度が正常速度になるよう修理する。

格納保管

1. ブロアをきれいに掃除する。ファン・ハウジングの泥、葉、汚れをすべて取り除くこと。
2. 各グリス注入部のグリスアップを行う。にじみ出たグリスはふき取る。
3. PTO シャフトのスプラインにグリスを薄く塗布する。
4. ボルト、ナット、ネジ類をすべてしっかり締める。

Toro 一般業務用機器の品質保証

2年間品質保証

保証条件および保証製品

Toro 社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品（「製品」と呼びます）の材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。

*アワー・メータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われた場合には、「製品」を納入した弊社代理店（ディストリビュータ又はディーラー） に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。

連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196
952-888-8801 or 800-982-2740
E-mail: commercial.service@toro.com

オーナーの責任

「製品」のオーナーは、オーナーズマニュアルに記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません。

- Toroの純正交換部品以外の部品や弊社が認めていないアクサセリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。
- 必要な整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレード、リール、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言います。
- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない冷却液や潤滑剤、添加剤の使用などが含まれます。
- 通常の使用にともなう「汚れや傷」。通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類（「部品」）は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。

この保証によって取り外された部品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。場合により、弊社は部品の交換でなく再生による修理を行います。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害にたいする免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。

この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

エンジン関係の保証について： 米国においては環境保護局（EPA）やカリフォルニア州法（CARB）で定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。くわしくは、エンジンマニュアルまたはエンジンメーカーからの書類に記載されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧下さい。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店（ディストリビュータまたはディーラ）へおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は輸入元にご相談ください。輸入元の対応にご満足頂けない場合は本社へ直接お問い合わせください。

Part No. 374-0031 Rev. a